



小田原 平塚・修善寺・粕久保正教会だより

2021年10月1日発行 第230号

КРЕСТЪ クレスト

2021年10月号

司祭 ディミトリイ 田中 仁一

〒250-0011 神奈川県小田原市栄町四丁目 4-1

TEL/FAX : 0465-22-2792 携帯 070-5079-3408

E-mail: holyspiritodawara@gmail.com

教団 HP: <http://www.orthodoxjapan.jp/>

小田原正教会 HP: <http://odawara-orthodox.com/>

郵便振替口座(小田原): 00270-6-15226

女^{じよさい}宰^{てんし}よ、天^{てんし}使^{かい}の會^{かい}と、
尊^{そんきこうえい}貴^{きこうえい}光^{こうえい}榮^{えい}なる預^{よげんしや}言^{げんしや}者^{しや}と、
首^{しゅざ}座^ざたる使^{しと}徒^とと、神^{しんひんちめいしや}品^{ひんちめいしや}致^{ちめいしや}命^{めいしや}者^{しや}
及^{およ}び司^{しさいちやうら}祭^{さいちやうら}長^{ちやうら}等^{とも}と偕^{とも}に、
我^{われらざいにん}等^{ざいにん}罪^{なんじ}人^{なんじ}、爾^{ひこ}の庇^{ひこ}護^ごの祭^{まつり}を
日^{にほん}本^ちの地^{さんえい}に讚^も榮^のする者^{ため}の為^{ため}に
神^{かみ}に祈^{いの}り給^{たま}へ。

生^{しょうしんじよ}神^{しんじよ}女^{じよ}庇^{ひこ}護^ご祭^{まつり} 晚^{ばん}課^かよ^り



生^{しょうしんじよ}神^{しんじよ}女^{じよ}のイ^いコ^こン

この壁画はテサロニキの街のど真ん中に位置する聖セオドラ女子修道院の中庭にある。このように右手で主ハリストスを指し示す姿で描かれる生神女のイコンをオディグトリア、「導引女のイコン」という。主ハリストスの宝座である生神女マリヤは、私たちの救い主がイイススハリストスであることを私たちに向かって常に指し示している。

●五旬祭後第15 主日聖体礼儀 (第6調)・執事会

10月3日(日) 10:00~ (9:30 痛悔)

使徒経: コリフ後書 176 端(4:6-15) 福音経: マトフェイ 92 端(22:35-46)

●五旬祭後第17 主日聖体礼儀 (第8調)・月例パニヒダ

10月17日(日) 10:00~ (9:30 痛悔)

使徒経: コリフ後書 182 半端(6:16-7:1) 福音経: ルカ 26 端(6:31-36)

●五旬祭後第19 主日聖体礼儀 (第2調)

10月31日(日) 10:00~ (9:30 痛悔)

使徒経: コリフ後書 194 端(11:31-12:9) 福音経: ルカ 35 端(8:5-15)

正教会によようこそ 21

主教会議で決定されたことが一般信徒によって覆されることもあります。15 世紀、フローレンスで開催された会議でのことです。東方正教会から出席した代表者のほぼ全員が、正教会をローマ教会の支配下に置くことに同意する文書にサインしました。…これにたった一人反対した信徒は今でも記憶されている聖人、エフェソの聖マルコです。

こうとうわごうせい
共同和合性とは、神と神に繋がる互いの人々が、ひとつの共同体として神の意志を見出すことです。共同体として、最初に行われた会議の様子は使徒行伝/聖使徒行実 15 章に見られます。それは、宣教に出た人々と教会の指導者がエルサレムに集まった時のことでした。宣教先で、キリスト教徒になったユダヤ人たちがユダヤ教の習慣を変えずに生活しているという問題にどう対処したらよいかということでした。使徒や長老たちの激しい議論の結果、エルサレムの主教聖ヤコブは皆の総意をまとめて一つの宣言をしました。それを書面にしたものが使徒行伝 15 章 23 節から 29 節です。「…あなたがたの兄弟である使徒および長老たちから、アンテオケ、シリア、キリキヤにいる異邦

人の兄弟がたに、あいさつを送る。こちらから行ったある者たちが、わたしたちからの指示もないのに、いろいろなことを言って、あなたがたを騒がせ、あなたがたの心を乱したと伝え聞いた。そこで、わたしたちは人々を選んで、愛するバルナバおよびパウロと共に、あなたがたのもとに派遣することに、衆議一決した。このふたりは、われらの主イエス・キリストの名のために、その命を投げ



出した人々であるが、彼らと共に、ユダとシラスとを派遣する次第である。この人たちは、あなたがたに、同じ趣旨のことを、口頭でも伝えるであろう。すなわち、聖霊とわたしたちとは、次の必要事項のほかは、どんな負担をも、あなたがたに負わせないことに決めた。それは、偶像に供えたものと、血と、絞め殺したものと、不品行とを、避けるということである。これらのものから遠ざかっておれば、それでよろしい。以上」。

こうした共同和合性を重視する東の教会に対して西の教会は君主制へと向かっていきます。教皇が王様のような権威を教会全

体に持つことができたのです。当時のヨーロッパの情勢を考えてみてください。西の方では安定した中央政権こそが、国として存立するために必要不可欠だったのです。

東西キリスト教大分裂は実に長い年月の間起きていましたが、それを決定的にする時がついに来ました。歴史家の人なら、あっさりそれは西暦 1054 年だと言うことができるでしょう。その時、コンスタンティノーブルの総主教ミハイル・セルラリウスのもとに、ローマ教皇の代表団が一通の手紙を渡しに来ます。その内容は「ローマの権力が全世界下に有効にする許可を与えよ」というものでした。総主教ミハイルがそれを却下すると、ローマ教皇の代表団は総主教座大聖堂であるアヤ・ソフィヤの宝座(祭事を行う至聖所内のテーブル)の上に「交流断絶」という紙を置いたのです。それに対して総主教ミハイルもまた、代表団に交流断絶の返事をしたのでした。これによって一つだった教会は分裂して今日に至っているのです。

どちらがどちらを離脱したと断言できるでしょうか。そもそも教会とはどのようなものであるかを今一度考えて、この非常に繊細な認識の違いを見出さなければなりません。

西のキリスト教会の考え方では、教会という組織が信仰を形成すると考えます。つ

まり、エビなどのように外側に骨格、システムがあり、その中に信者が集まる、というイメージです。西の教会から見れば、これを形成する教皇を中心とした骨格からはみ出たのが東側の教会(分裂したことで、のちに「正教会」と呼ばれるようになる)で、彼らはこのシステムを認めなかったのだと考えます。

東のキリスト教会では信仰が教会を形成するという考え方をします。共通の信仰を持った人々が集って形を成す、たとえば魚のように骨格が体の中心にある共同体です。東の教会からしてみれば、離脱した西のキリスト教会は昔からの共同体の在り方を否定して、あのフィリオケと同じように新しい考え方を作って教皇中心の教会を始めてしまったと考えるのです。

ずいぶん昔の歴史を引っ張り出してきてしまいました。現代のキリスト教徒は誰しもがこうして発生した違いの上に生きるしかなく、違いよりも共通している部分を出来るだけ見つけて、共にキリスト教徒であると互いに納得しなければならないという境遇にいます。今お話した歴史は、実は西のほとんどの教会では知られていません。しかしこの歴史こそが、西のキリスト教会と正教会が何故違うものに思えるのかを理解するための大きな手掛かりとなります。

最近の出来事・消息

小田原・平塚 平塚教会 家庭を開放して頂いて集会を行っている平塚教会ですが、密を避ける手段を講じるのは難しいことから、今年も勉強会・昼食会、および、家庭祭壇前での祈禱は中止することをアキラ重田明執事長と決定しました。毎年の墓地祈禱は行います。皆様とお会いする機会が減少していますが、各所での聖体礼儀の中で必ず平塚教会の信徒お一人おひとりを記憶し祈っています。一日も早く再開できる日を待ち望んでいます。

信徒会館耐震工事完了 9月13日(月)、耐震工事が完了しました。施工業者の担当者と執事会役員および建築委員が集まって感謝祈禱を行いました。皆様のご協力に心から感謝申し上げます。詳しくは次ページをご覧ください。



生神女誕生祭 9月18日(土)17時より、祭日前晩禱が行われました。台風のため誰も来会できませんでしたが、各所に大きな被害なく過ごせたことを感謝する祈禱にもなりました。翌19日(日)、暦より2日早く生神女誕生祭を記念する聖体礼後を行いました。まだ大勢の人が集まれる状況ではない中での大祭祈禱でした。この祭では、主ハリストスの母であるマリヤは神ではなく人であること、そしてハリストスは神でありながら完全な人間の肉体をもって人を救う業を行ったこと、そして神は常に人を介して救いの業をされようとしてきたことと示されていると説教で語られました。また聖体礼儀後には月例パニヒダが行われました。

柏久保・修善寺 9月11日(土)10時より、柏久保教会にて主日代式祈禱を行いました。9月12日(日)は修善寺教会での祈禱でした。今後、管轄の都合から、司祭の巡回がない月も発生するので、それに備えて信徒で聖体礼儀の代式祈禱ができるように準備しているところです。代式祈禱には領聖がありません。代式祈禱はパンとぶどう酒に関わる祈禱がない30分から40分くらいの祈禱式になっていて、三時課と六時課を合わせると70分ほど所要します。いつか感染状況が落ち着いたときには、たとえ司祭が不在でも聖堂に集まって伊豆の二教会での祈りを絶やさないようにしていきたいと願っています。マシカは来会して皆様とともに参禱します。ご負担をおかけし、誠に申し訳ありませんが、ご協力をお願い申し上げます。



横浜 9月11日・12日五旬祭後第12主日の祈禱をガブリエル田中和幸神父の司禱にて行いました。12日聖体礼儀に続き、8月と9月の永眠者を記憶する月例パニヒダを行いました。

永遠の記憶 ニキータ アレニコフ兄(31歳)ビクトルアレニコフ兄のご子息、ニキータ兄がご永眠されました。ニキータ兄はロシアにお住まいで、ビクトル兄は感染症対策のためにご子息の葬儀に赴くことはできませんでした。ニキータ兄に永遠の記憶を神が賜りますことをお祈りいたします。また、お別れに立ち会うことができなかつたビクトル兄に神の慰めが賜りますことをお祈りします。

—信徒会館耐震工事が完了しました—

耐震診断をして右図のような結果を得てから約3年を経て、ようやく今年、耐震工事を実施いたしました。新型コロナウイルス感染症問題をはさみながら、計画は実にゆっくり進みましたが、皆様の祈りと実施計画を協議して下さった執事会および建築委員会に支えられ、9月13



日月曜日に竣工しました。この工事により建物の強度が増し、壊れていた玄関扉を新しくし、トイレをどなたでも使用しやすいようにリフォームしました。また、一段高くなっていることで使用頻度が少なくなった和室の段をなくしました。

まだ、感染症予防のために、大きな集会を信徒会館で行うことはできませんが、今後も永く使用できる信徒会館になったのではないかと思います。皆様からの献金をこのような形にできたことを神に深く感謝しています。



片筋交いを両筋交いに



木のドアを引き戸に変更



トイレを大きくしました



小杉兄による壁の意匠をきれいに塗り直しました

献金報告

10/20 現在 日付は会計処理日です。ありがとうございました。

日付	氏名	摘要
9/5	會見 典子様	パニヒダ献金
	廣石 利恵姉	感謝献金
9/19	セルギイゴロバチョフ兄	パニヒダ献金

日付	氏名	摘要
9/19	ビクトル アレニコフ兄	パニヒダ献金
	神谷 忠明執事長	パニヒダ献金

婦人会献金

日付	氏名	摘要
10/5	廣石 利恵姉	

お手間のかかるところを郵便振り込みにて献金を送って下さり、感謝申し上げます。郵便振り込みの場合、手続きにお時間を頂いております。今月号で献金袋または領収書をお返しできなかったときは次号に同封いたしますので、ご了承ください。

【2021年10月】小田原/平塚・修善寺/柏久保・横浜教会月間活動予定表

日	曜日	祈祷・行事・集会	主日・調・聖書の読み
1	金	[小田原] 西湘地区連合教役者会(小田原聖十字教会)	10/3
2	土	[O 小田原] 主日前晩祷(17:00)	五旬祭後第15主日 第6調 使徒経: コリ後4:6-15 福音経: マト22:35-46
3	日	[O 小田原] †主日聖体礼儀(10:00)・執事会 [Y 横浜] 主日代式祈祷(10:00)	
4	月		
5	火	[東京 教区理事会15:00]	10/10
6	水	[東京]	O 小田原
7	木	[東京]	五旬祭後第16主日
8	金		第7調 使徒経: コリ後6:1-10 福音経: ルカ5:1-11
9	土	[K 柏久保] 主日代式祈祷(10:00) [Y 横浜] †祭日前晩祷(17:00 D田中)	
10	日	[S 修善寺] 主日代式祈祷(10:00) [Y 横浜] †祭日聖体礼儀・敬老会(10:00 D田中)	Y 横浜 Feast 生神女庇護祭(堂祭) 横浜会報表紙参照
11	月	[修善寺墓地祈祷(三島1・愛鷹)]	10/17
12	火	[東京]	五旬祭後第17主日
13	水	[東京]	第8調
14	木	[東京]	使徒経: コリ後6:16-7:1 福音経: ルカ6:31-36
15	金	[修善寺墓地祈祷(富士霊園・朝霧)]	
16	土	[O 小田原] 主日前晩祷(17:00)	
17	日	[O 小田原] †主日聖体礼儀(10:00)・月例パニヒダ [Y 横浜] 主日代式祈祷(10:00)	
18	月	[修善寺墓地祈祷(三島2・江間)]	10/24
19	火	[東京]	五旬祭後第18主日
20	水	[東京]	第1調
21	木	[東京]	使徒経: コリ後9:6-11 福音経: ルカ7:11-16
22	金	[横浜]	
23	土	[Y 横浜] 主日前晩祷(17:00 D田中)	
24	日	[O 小田原] 主日代式祈祷(10:00) [Y 横浜] †主日聖体礼儀・月例パニヒダ(10:00 D田中)	
25	月	[横浜]	10/31
26	火	[東京]	五旬祭後第19主日
27	水	[東京]	第2調
28	木	[東京]	使徒経: コリ後11:31-12:9 福音経: ルカ8:5-15
29	金		
30	土	[修善寺墓地祈祷(修善寺)]	
31	日	[O 小田原] 主日聖体礼儀(10:00) [Y 横浜] 主日代式祈祷(10:00)	

*[]内は司祭または教区の活動。 † means where Divine Liturgy is held. O Y K S are initials of each parishes. *

* 聖体礼儀に参拝し領聖するときは、前日から十分に節制しましょう *

* ここには主日の聖書の読みが記載されています。お手持ちの聖書を読むときに活用して下さい。



10月の永眠者一覧(敬省略)

永眠日	聖名	氏名	永眠年	縁故者
30日	長司祭グリゴリイ	内藤 三雄	1981年	内藤 直樹
1日	ミハイル	假野 松樹	2001年	假野 美枝
1日	マリア	松田 マリア	2019年	松田 亨
2日	ニコライ	渡辺 忠	1923年	渡辺 宏
2日	ノンナ	田村 清子	2009年	吉竹家
4日	イオアン	重田 恒吉	1929年	重田 博
5日	ロマン	山口 活次	1889年	山口 晃
5日	グリゴリイ	飯塚 正男	2004年	山本 保
6日	マトフェイ	小杉 実	1936年	小杉 悦子
7日	フォカ	廣石(赤子)	1909年	廣石 利恵
8日	ミハイル	中根 藤吉	1989年	
8日	アルセニイ	秋澤 英治	2011年	
9日	シメオン	澁谷 正男	1989年	澁谷 道子
12日	ニコライ	廣石 大介	2014年	廣石 清子/由
17日	イサアク	山口 以撒	1892年	山口 晃
18日	アレキセイ	日比野 平蔵	1955年	日比野 勇
18日	マリヤ	多喜 かく	1997年	廣石 利恵
18日	イリナ	石井 愛子	2018年	石井家
19日	マルコ	澁谷 新治	1966年	澁谷 道子
20日	エレナ	内藤 澄子	1922年	内藤 直樹
21日	シメオン	紺野 泰史		紺野 雅章
	エカテリナ	紺野 弥生		紺野 雅章
22日	マリア	新坂 真理	2019年	新坂 秀男
23日	イアコフ	紺野 雅治	1925年	紺野 雅章
23日	イアコフ	石井 勝治	1946年	石井家
25日	ニーナ	内藤 和子	2008年	内藤 直樹
25日	ルカ	山本 繁	2012年	山本 保
26日	ニカ	山口 かつ	1988年	山口 晃
27日	パウエル	中島 基一	1946年	岡野 康子
27日	ルカ	澁谷 政吉	1925年	澁谷 道子
27日	オリガ	上野みゆき	1985年	上野 攻
30日	ワルワラ	中島 たま	1946年	岡野 康子
30日	ナデジダ	吉竹 恵子	1999年	吉竹家
30日		川辺 久雄	1991年	川辺 康弘

今月は第3週日曜日に永眠者の記憶を祈る「パニヒダ」を行います。聖堂は皆さんの
お祈りの場、そして皆さんの^{たましい}霊が永遠に養われる場です。ローソクを灯して少しの
間、ご家族のために祈りに来られるだけでも大変結構です。どうぞ遠慮なさらずお越
しく下さい。(月例パニヒダの日は必ず会報をご確認ください。)

一日露戦争と小田原ハリストス正教会 — 井上 東亜

小田原のように迫害のはげしい地での司祭の苦心は、容易なものではない。こうした場合、現地諸官署との談判交渉については、信徒の中に、相談相手になるような者がおれば大変心強いものなのだが、小田原正教会には、そうした信徒が少なく、司祭も閉口している。ここ一番、信徒の奮励を期待するところである。

これらの件につき、状況調査のため、東京本社から、石川喜三郎氏が三月二十七日、小田原正教会へ出張を命ぜられ、大磯教会にも立ち寄って同月三十日帰京した。

小田原正教会につづいて、遠州磐田郡三川村の萱間教会でも、同様の迫害事件が発生した。三月三十一日～四月一日にかけ、暴徒二百名以上が教会を襲撃し、聖像を破壊し、戸障子を破壊し、狼籍の限りを尽した。信徒中に重傷者を出さなかったのが不幸中の幸いである。

以上が『正教新報、五六一号』の伝える迫害の実態である。神奈川県の場合、正教会信徒への妨害をたしなめた、県内務部長通達が出されており、正教会側の伝える記述を裏づけている。

この春の迫害から約半年後、小田原の状況を『正教新報、五七四号』（明治三十七年十一月一日発行）はつぎのように伝えている。信徒がうけている圧迫は依然として強いため教会出席者も少なく、土曜日の参拝者は小児を合わせても十名前後、日曜日でも二十名前後で満足な活動が行えない。近隣村では、村会議員や役場吏員をつとめる信徒に、辞職勧告が出されたりもしている。「これ要するに、当地一般の景況は実に悲しむべき状態」となっている。（続く）

小田原・修善寺・柏久保の

秋



病気で枯れかけた聖堂前の左側のオリーブの木。元気になって初めての実を付けました（小田原）



新信徒会館を建てたときに廃材利用した粉碎瓦。それをまいた地面からかわいいキノコが！（修善寺）



通り抜ける秋風が、信徒さんの手で植えたたくさんの黄色い花を揺らしています。（柏久保）